

氏名	長尾俊彦		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	甲第624号		
学位授与の日付	昭和61年9月30日		
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	超音波パルスドプラ法による三尖弁閉鎖不全症の診断と手術適応に関する研究		
論文審査委員	教授 折田薫三	教授 長島秀夫	教授 中山 沃

### 学位論文内容の要旨

僧帽弁疾患にて開心術を施行した49例に Pulsed Doppler echocardiography (PDE) にて術前後の TR を定量評価し、これに他の臨床データを加味し TAP の術後評価およびその適応を検討した。TR重症度はPDEのTR血流検出範囲より TR I, TR II, TR III の3段階に分類した。

術後 TR III 残存群は他群に比し CI, NYHA 機能分類が悪く、術後データの改善も不良であり TR III のおよぼす臨床的影響が大きいことを示唆しており、外科治療の絶対適応と考えられた。一方 TR I は心臓カテーテルデータの値からも PDE 法の測定精度からも臨床的意義は少なく、外科的処置は不要と考えられた。TR II には TAP 施行群と放置群があった。TR 放置群のうち、術後 TR 非改善群は術前 RVs が  $35.3 \pm 6.2 \text{ mmHg}$ , 改善群は  $49.4 \pm 31.0 \text{ mmHg}$  であった。RVEDP は非改善群が  $8.9 \pm 2.3 \text{ mmHg}$ , 改善群は  $5.3 \pm 2.3 \text{ mmHg}$  であった。したがって、TR II 群では、RVs が高値でないのに RVEDP が高い症例に対して積極的に TAP を施行すべきと考えられた。

以上より PDE は TR の評価、TAP の適応決定に際し非侵襲的で優れた方法であると思われた。

### 論文審査の結果の要旨

三尖弁閉鎖不全 (TR) の術前重症度判定には簡易にして信頼しうるパラメーターのないのが現況である。本研究者は僧帽弁疾患にて開心術を施行した49例を対象に、Pulsed doppler echocardiography (PDE) による TR 血流検査範囲より3度に分類している。

TRの重症度と従来の各種心機能の指標，三尖弁輪縫縮術（TAP）の成績を比較し，その成績よりPDEによる重症度判定は極めて優秀であり，TAPの適応決定にも有効なことを明らかとしている。価値ある業績にて本研究者は医学博士の学位を得るに十分なことを認める。